

# IF-BEAT

千葉大学 国際教養学部  
CHIBA UNIVERSITY  
College of Liberal Arts and Sciences

Intensive  
Issue  
Based  
Education  
and  
Training  
Program



## インテンシブ・イシュー教育プログラム



「課題解決型人材の育成」  
を目指して

# 2023

IF-BEAT

インテンシブ・イシュー教育プログラムのモデル展開  
INTENSIVE ISSUE BASED EDUCATION AND TRAINING PROGRAM

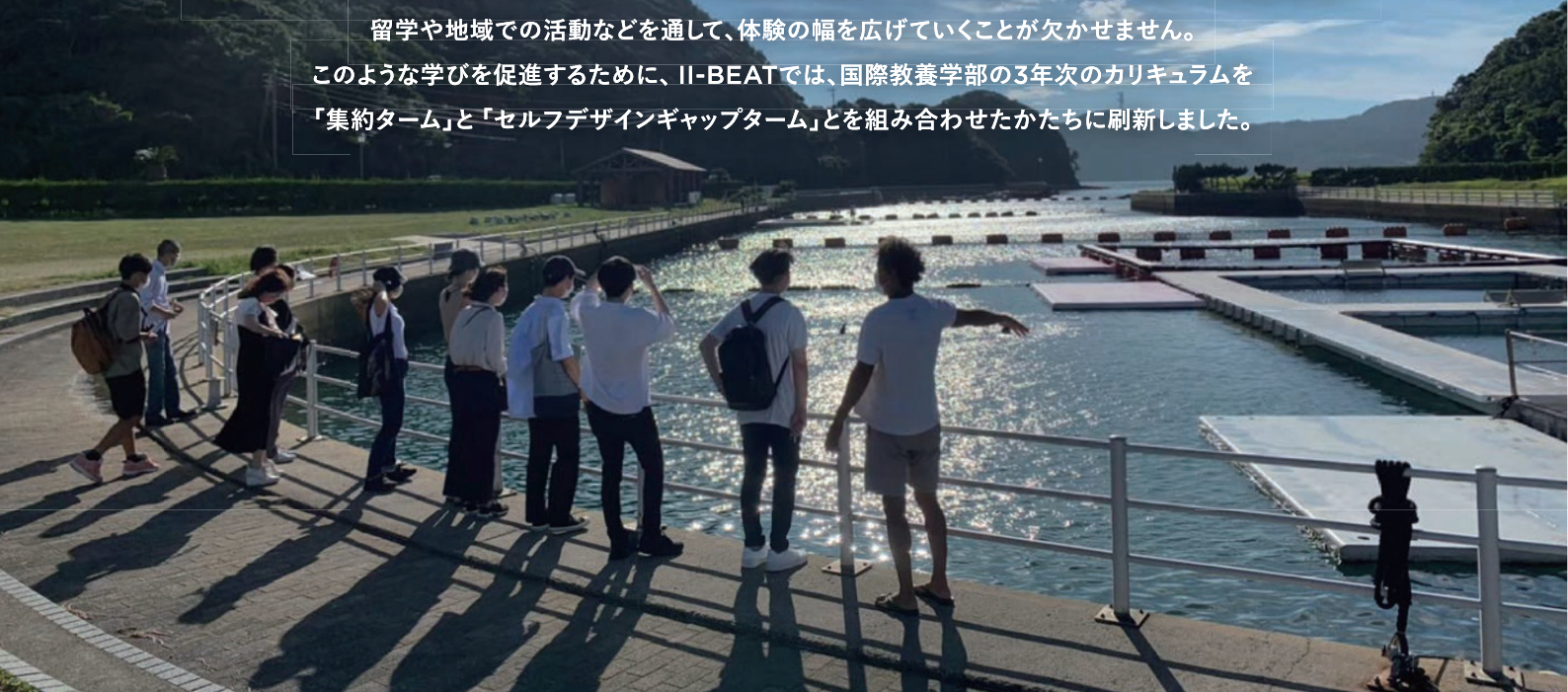
CHIBA  
UNIVERSITY

# II-BEATとは？

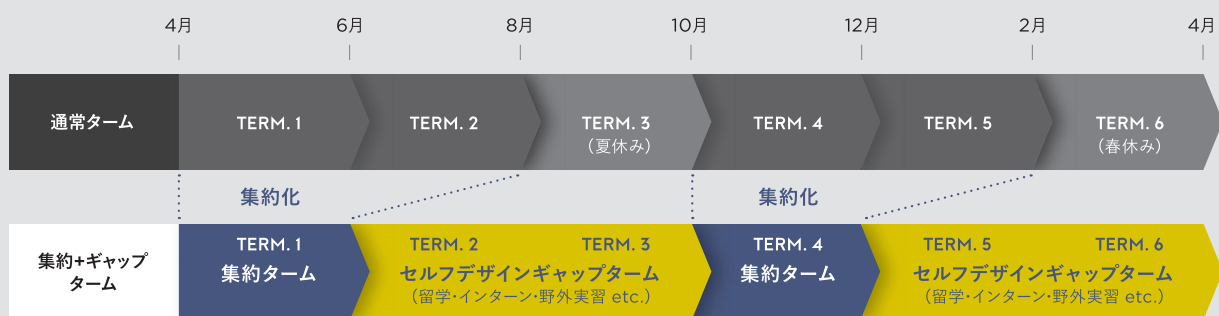
「インテンシブ・イシュー教育プログラム」(Intensive Issue Based Education and Training Program:II-BEAT)とは、2021年度よりスタートした、メリハリをつけたターム運営によって「イシュー（課題）ベースの学び」を深化させる取り組みです。

現代社会が直面する様々な問題の中で、学生それぞれが「イシュー」を発見し、自らアプローチしていくには、文系・理系を問わず多様な学問領域に触れ、知識やスキルを身につけると同時に、留学や地域での活動などを通して、体験の幅を広げていくことが欠かせません。

このような学びを促進するために、II-BEATでは、国際教養学部の3年次のカリキュラムを「集約ターム」と「セルフデザインギャップターム」とを組み合わせたかたちに刷新しました。



## CURRICULUM



### 「集約ターム」 (第1・第4ターム)

領域を横断する教員による講義や演習を集約的に受講するタームです。3年次の必修科目は原則このタームに開講されます。また、関連した複数の授業を同時履修することによって、特定のテーマについて深めていく「モジュールコース」も計4コース設定されています。

### 「セルフデザインギャップターム」 (第2-3・第5-6ターム)

必修科目がなく、自分自身で学びの内容をデザインするタームです。通常の授業や集中講義、教員による特別プログラムのほか、長い期間が必要になることも多い留学やインターンなど学外での活動も含めて、それぞれが自由にカスタマイズできます。自身の興味・関心に応じて、この期間をどう過ごすか早めに計画を立てましょう。

# 集約ターム

領域を横断する講義や演習を集約的に受講

## クロスメジャープロジェクトI (CMPI)

第1ターム

3年次前期の必修科目、「クロスメジャープロジェクトI」(CMPI)は、II-BEATにより大幅に刷新されました。この授業は、4年次のメジャープロジェクト(卒業研究・卒業制作)においてそれぞれの学生が自身の設定した 이슈に取り組んでいくため、学問分野を越境し、広範囲にわたる学問的方法論の基礎を学ぶことをねらいとしています。

新しいCMPIでは、各メジャー(グローバルスタディーズ、現代日本学、総合科学)5つのプログラム、合計15のプログラムが開講され、学生は自らの所属メジャーと所属外メジャーのプログラムをそれぞれ1つずつ履修します。さらに定員に空きがあれば、追加で1プログラム受講できます。学生ごとに異なる興味・関心に応じて、多様な組み合わせによる学問的内容を「クロス」して学びます。



CMPIでのグループワークの様子

### 2023年度 クロスメジャープロジェクトI 科目一覧

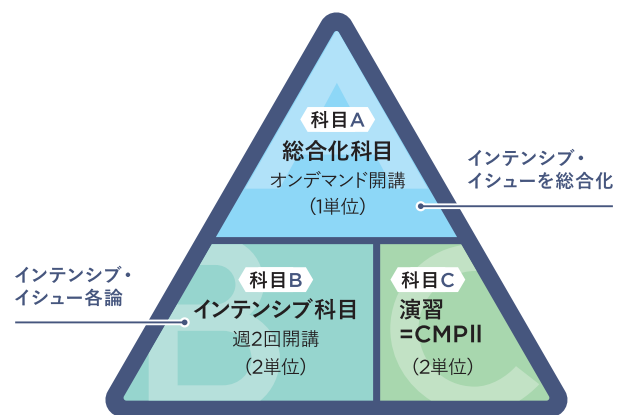
グローバルスタディーズメジャー	現代日本学メジャー	総合科学メジャー
1 国際移動とアイデンティティ論	1 社会をつなぐ日本語の教育	1 「自然」を測る
2 国際移動とライフコース論	2 グローバル化と第二言語習得	2 「環境」を測る
3 国際関係・開発経済	3 社会・多文化・制度	3 「光」を測る
4 アイデンティティと表象	4 エスノグラフィーから読み解く人々の生活	4 「身体」を測る
5 IPCCの最新報告書AR-6を読み解く	5 言語と文化	5 「測る」を測る

## モジュールコース

第4ターム

モジュールコースは、当該のテーマに関する基礎的な知識をオンデマンドで身につける「科目A」、週2回開講でテーマについてより深く学ぶ「科目B」、それらをもとに自らがイシューを探索する「科目C」の3科目からなります。これら相互に関連した科目群ABCを同タームに開講することで、そのテーマについて多様な角度から集約的な学びを促そうというものです。

2023年度は、「移民・難民論研究」「地方・地域振興研究」「スポーツ振興研究」「総合環境科学研究」の4種類のモジュールコースが設けられています。4年次のMPでこれらに関連したテーマに取り組む学生は、原則このモジュールコースを履修します。ただし、科目Aはその授業単独での受講も可能で、科目Bは担当教員の許可が得られれば授業を受けられます。



モジュールコース履修学生は科目A、B、Cが必須

### 2023年度 モジュールコース一覧

コース名	移民・難民論研究	地方・地域振興研究	スポーツ振興研究	総合環境科学研究
科目A:総合化科目	NPO・NGO論	地方創生論 <sup>※</sup>	地方創生論 <sup>※</sup>	科学と社会的意思決定
科目B:インテンシブ科目	フィールドから学ぶ	千葉の地域資源と活用	スポーツによるまちづくり	社会と科学技術の界面
科目C:演習=CMPII	移民・難民特別演習	地方・地域振興特別演習	スポーツ振興研究特別演習	総合環境科学特別演習

<sup>※</sup>令和4年度との開講調整のため、令和5年度は非開講

# セルフデザインギャップターム

自分で学びの内容をカスタマイズ

## 特別プログラム

第2-3・5-6ターム

各教員が、メジャープロジェクト（卒業研究・卒業制作）への接続を意識し、ギャップタームに開講しているプログラムです。高度な実験・調査のスキルを身につけられるものや、地域でのワークショップやプロジェクト型の活動に参加するものなど、年度・タームごとに異なるプログラムが開講されます。自分の興味関心に関連するものがある場合は、積極的に受講してください。

### 2022年度に開講された特別プログラムの例

プログラム名	担当教員
環境・生物多様性プログラム	上原・永瀬
仮想空間内におけるデジタル教材・マニュアルづくり	小泉
グローバル社会における日本語コミュニケーション	佐藤・吉野
横芝光町タウンプロモーション動画制作	鈴木
墨田区のものづくり企業とSDGsまちづくりのブックレットデザイン	田島
照明がもたらす感情効果	田中
コミュニケーションで創る「再生医療の未来」	東島
光科学基礎実験	三野
フィールドワーク準備演習	和田
植物細胞の単離と培養	渡辺

## 自己設計科目

第2-3・5-6ターム

ギャップタームの期間に、自身で見つけて参加した学外のインターンシップや活動が、単位として認定される仕組みです。「事前の計画・提案書の提出」「計45時間以上の活動への参加」「事後報告の提出」などによって、1単位が付与されます。これまでに、企業や官公庁でのインターンシップや、webサイト開発のプログラムへの参加などが認定されています。



特別プログラムでの実験や野外実習の様子



特別プログラムの一覧や自己設計科目の履修手続きについては、セルフデザインギャップタームのポータルサイトを参照してください。（※学内専用。閲覧には、千葉大学GoogleWork Spaceアカウントへのログインが必要です）



## SULA、Student SULAによる学習サポート

II-BEATに関連した内容を含めて、履修や学習、進路等に関して疑問や悩みなどがある場合は、学修支援スタッフであるSULA（Student University Learning Administrator）にご相談ください。どのような科目を履修するか、課題解決に必要な活動体験や海外留学をいつどのように行うかなどについて、皆さんの個々のニーズに合わせてアドバイスをすることができます。

また、同じ学生の立場でピアサポートを行うStudent SULAも気軽に活用してください。先輩の経験談を聞けたり、迷っていることを一緒に考えてもらったりすることができます。さらにStudent SULAは、相談窓口での対応以外にも様々な学習企画を行っていますので、気になるものがあればぜひご参加ください。

## YouTube「国立大学法人千葉大学 公式チャンネル」で公開中の 国際教養学部とII-BEATの紹介動画をご覧ください！

千葉大学  
国際教養学部  
の歩み



国際教養学部  
新カリキュラム  
II-BEAT



地球規模の現代的課題を解決できるような人材を育成するため、国際教養学部のカリキュラムには様々なユニークな特徴があります。この動画では、在籍した学生の声も取り上げながら、国際教養学部における学びについて紹介します。

「II-BEAT」は、これまでも展開してきた課題解決型（イシューベース）の学びをさらに推進するためにスタートした取り組みです。この動画では、新しいカリキュラム「II-BEAT」の特徴について紹介します。

